

>教育講演 1

開催形式:ライブ配信

コミュニティホスピタルのあゆみらい 地域に開かれた病院づくり(公募企画)

企画責任者 吉田 伸(潁田病院)

講演 1 本田 宜久(潁田病院)

講演 2 近藤 敬太(藤田医科大学 総合診療プログラム 助教／
豊田地域医療センター 在宅部門長)

講演 3 松島 和樹(医療法人 川崎病院 総合診療科)

講演 4 金城 謙太郎(帝京大学医学部救急医学講座総合診療科／
帝京大学大学院公衆衛生学研究科)

講演 5 大杉 泰弘(藤田医科大学 医学部 連携地域医療学)

[開催の目的]

全国 8400 の病院のうち、200 床以下の病院は 5600 を占め、その多くが医師不足と経営赤字に悩まされている。このような中小病院では一般外来に加え、地域包括ケア病棟、在宅病としての在宅医療の実施も診療報酬上は可能だが、実際のところ医師のリクルートと病院家庭医にフィットした教育、地域で病院が果たすべき役割を見据えたうえでの経営・連携方針の浸透、病棟や在宅の多職種による体制作り、そして回り始めたあとのチームワークのこまめな修正など様々なハードルがある。この教育講演ではそれらを Community Hospital Japan のメンバーが分担発表・議論することで、地域に開かれた病院づくりによって、日本のプライマリ・ケアを中盤から支えるコミュニティホスピタルの概念を浮かび上がらせる。

[企画概要]

以下のトピックについて、演者が話題提供の講演を行い、他のメンバーが顔出しのうえで内容につき適宜クロストークを行うことで、コミュニティホスピタルの多様な理念・実践・学術の要素を具現化する



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

● ライブ配信

● オンデマンド配信

● オンライン開催

● 大野 每子 (唐津市民病院きたはた 院長)

2021年5月21日(金)～23日(日)

2021年5月21日(金)～7月21日(水)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

>教育講演 2

開催形式:ライブ配信

ユマニチュード～研究をとおして～(実行委員会企画)

企画責任者 大野 每子(唐津市民病院きたはた)

座長 横谷 省治(筑波大学医学医療系 寄附講座地域総合診療医学)

演者 本田 美和子(国立病院機構 東京医療センター 総合内科)

[開催の目的]

ユマニチュードについては、認知症のケアの大きな柱として日本プライマリ・ケア連合学会でも、セミナーや学術大会の場で講演等数多く開催されてきました。また2019年には日本ユマニチュード学会が設立されました。日々進化しているユマニチュードについて、最近の研究の知見を交え、ご講演いただき、改めて学びたいと思います。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

会期 ライブ配信 2021年5月21日(金)～23日(日)
オンデマンド配信 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
会場 オンライン開催
大野 每子 (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

>教育講演 3

開催形式: オンデマンド配信

SAGATOCO(サガトコ)ひとが歩くとまちが元気になる(実行委員会企画)

企画責任者 小林 勇文(唐津市民病院きたはた)

演 者 西村 賢二(佐賀県健康福祉部 健康増進課)

[開催の目的]

地方自治体によるヘルスケアとまちづくりのアウトリーチ

[企画概要]

佐賀県は県内に公共の交通機関が少なく、車依存による運動不足の県民が多い。その結果、働き盛りの世代で肥満が増えており、全国でも糖尿病予備群の割合が高い。サガトコは車依存から脱却し、歩くライフスタイルへの転換を図ろうと県が開発。「自身の健康管理だけではなく、人が歩くとまちも元気になる」「歩く社会づくり」にチャレンジしている。仕掛けとして、佐賀の偉業や偉人の功績を知らながら街なかを歩いてもらうフォトクイズラリーや、肥満対策は子供の頃からと子供たちにバス乗車を体験するきっかけを提供し、路線バスを利用した「バスでGO! こどもノリノリなぞときスタンプラリー」も開催。「県民の皆さんが日常的にもっと歩いてみたいと思ってもらえるような環境づくりや、歩くことを積極的にとりいれたライフスタイルに変えていくための仕掛けづくりが必要。人が主役の“歩く社会づくり”にチャレンジしていきたい」。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

会 期 ライブ配信

2021年5月21日(金)～23日(日)

オンデマンド配信

2021年5月21日(金)～7月21日(水)

会 場 オンライン開催

大 野 每子 (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

>教育講演 4

開催形式: オンデマンド配信

へき地医療での看取り医療の取り組み(実行委員会企画)

企画責任者 辻 智幸(辻薬局)

座 長 井上 真智子(浜松医科大学 地域家庭医療学講座)

演 者 阿部 智介(医療法人慈孝会 七山診療所)

[開催の目的]

山間部や離島などへき地での医療提供体制は地元の開業医が全ての責任を負う形がほぼ全国各地で見られています。一人の医師にかかる負担はかなり大きい中、患者本人にとって人生の終末期をいかに有意義にするために、かかりつけ医がどのように考え、行動を起こすべきかを考えます。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

会 期 ライブ配信 2021年5月21日(金)～23日(日)
オンデマンド配信 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
会 場 オンライン開催
大 野 毎子 (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

>教育講演 5

開催形式: オンデマンド配信

プライマリ・ケア分野における研究の障壁を打破する(実行委員会企画)

企画責任者 多胡 雅毅(佐賀大学医学部附属病院 総合診療部)
座長 杉岡 隆(佐賀大学医学部 地域医療支援学講座)
演者 福原 俊一(京都大学/Johns Hopkins 大学)

[開催の目的]

我が国におけるプライマリ・ケアの現場からの科学的なエビデンスの発信は少ない。人材育成に寄って、リサーチマインドを持つプライマリ・ケア医が増えた印象はあるが、リサーチマインドを持つことは研究においてのほんの第一歩である。プライマリ・ケア分野の研究は、研究者が置かれる立場が僻地、在宅、診療所、二次病院、三次病院など多種多様であること、対象となる患者も多種多様であることより、研究の開始、継続、達成の過程には様々な障壁がある。本講演では、個々のプライマリ・ケア分野の研究者が躓きがちな問題と解決法、プライマリ・ケア分野の研究界として抱える問題と解決法について、プライマリ・ケアと臨床研究の人材育成において実績が豊富で、多大なる貢献をされている福原俊一先生にご講演頂く。リサーチマインドを持つ研究前、研究中の研究者にとって有益な情報となると思われる。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

● **ライブ配信** 2021年5月21日(金)～23日(日)
● **オンデマンド配信** 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
● **オンライン開催**
● **大野 每子** (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

>教育講演 6

開催形式: オンデマンド配信

災害時におけるプライマリーケア～九州北部豪雨の経験を踏まえて～ (実行委員会企画)

企画責任者 朝長 元輔(嬉野医療センター 総合診療科)
座 長 大橋 博樹(医療法人社団家族の森 多摩ファミリークリニック)
演 者 佐藤 友子(社会福祉法人 恩賜財団 済生会熊本病院
救急総合診療センター 救急科)

[開催の目的]

災害時には、負傷者の救助や治療のみならず、避難所での対応、被災者の心のケアなど、医療従事者が対応を求められる分野は幅広い。プライマリーケアに携わる医療従事者は、いつ何時遭遇するか分からない災害医療に対して、ある程度の知識を身につけ、心構えを持っておく必要があると思われる。今回は総合診療医を経て、救急医として様々な現場で災害医療を実践されてきた佐藤友子先生に、災害時におけるプライマリーケアと題してご講演頂く。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

● **ライブ配信** 2021年5月21日(金)～23日(日)
● **オンデマンド配信** 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
● **会場** オンライン開催
● **大場** 大野 每子 (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

>教育講演 7

開催形式: オンデマンド配信

地域で展開!『折れない心を育てるいのちの授業』(実行委員会企画)

企画責任者 大野 每子(唐津市民病院きたはた)
座長 宮崎 景(三重大学医学部 名張地域医療学講座)
演者 笠原 健太郎(医療法人あおぞら胃腸科)

[開催の目的]

プライマリ・ケアの最前線に立って、地域の健康をまもり育む活動は、すそ野が広い。「折れない心を育てるいのちの授業プロジェクト」は全国的な取り組みだが、開業医である笠原健太郎医師は佐賀県唐津市で小学校などを舞台に多職種とともにそれを展開する。なぜそのプロジェクトを地域で始めたのか、どのようにすすめているのか、何をめざすのかなど私たちの地域への関わりへ示唆を与えていただきたい。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

● **会期** ライブ配信 2021年5月21日(金)～23日(日)
オンデマンド配信 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
● **会場** オンライン開催
● **大会長** 大野 每子 (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

>教育講演 8

開催形式: オンデマンド配信

がんのサバイバーシップ～研究をとおして～(実行委員会企画)

企画責任者 大野 每子(唐津市民病院きたはた)
座長 松村 真司(松村医院)
演者 高橋 都(岩手医科大学医学部客員教授/
東京慈恵会医科大学客員教授/
国立がん研究センターがん対策情報センター客員研究員/
NPO 法人日本がんサバイバーシップネットワーク代表理事)

[開催の目的]

生活の場を大切にするプライマリ・ケアにかかわる私たちには、がんのサバイバーシップに支援者、医療者などとしてかかわる場面は多いのではないのでしょうか。しかし、サバイバーシップについて知らないことで、支援を必要とする人が目の前を素通りしてしまっているのかもしれません。2020年10月にNPO法人がんサバイバーシップネットワークを設立された代表理事で医師の高橋都先生に、これまでの研究の知見も含め、ご講演いただき、学びたいと思います。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

● **ライブ配信** 2021年5月21日(金)～23日(日)
● **オンデマンド配信** 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
● **会場** オンライン開催
● **大野 每子** (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

>教育講演 9

開催形式: オンデマンド配信

我が国にそぐう「社会的処方」を目指して ～診察室で出会えない人をも対象とする活動～(実行委員会企画)

企画責任者 大野 每子(唐津市民病院きたはた)
座長 武田 裕子(順天堂大学大学院医学研究科医学教育学)
演者 川越 正平(あおぞら診療所)

健康の社会的決定要因への対策として、プライマリ・ケアの現場にいる私たちにはどんなことができるのでしょうか。日常の医療活動からより地域に踏み出した活動(アウトリーチ)をふくむ社会的処方箋について、川越正平先生の豊富なご経験を講演いただき、それぞれの地域で活かすヒントを得たいと思います。

[開催の目的]

英国からもたらされた社会的処方の認知度が上がり、2020年7月に閣議決定された骨太方針2020において、医師が患者の社会生活面の課題に注目し地域でのさまざまな支援へつなげる役割が言及された。本企画では、我が国の医療の実態を踏まえ、この社会的処方について「診察室で出会えない人」をキーワードに社会資源の紹介等にとどまらないアプローチを紹介する。1) 病院の専門外来等だけに継続受診している人、2) 助けを求める力が欠如している人、3) 今のところ問題を感じず健康へのニーズが乏しい人を取り上げる。

[企画概要]

- 1) 大病院の専門外来のみをかかりつけとする患者がいる。しかし、多疾病併存が増すにつれて総合的包括的な対応が必要となることから、二人主治医制が鍵となる。
- 2) ゴミ屋敷の住人や引きこもりの人、認知症や精神疾患の発症や治療中断のためにセルフ・ネグレクト状態に陥っている人が地域に存在している。介護や福祉の力だけでは解決が困難な事例に遭遇した地域包括支援センター等からの相談に応じて、医師が訪問するアウトリーチという活動が徐々に拡がりつつある。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

● **ライブ配信** 2021年5月21日(金)～23日(日)
● **オンデマンド配信** 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
● **オンライン開催**
● **大野 每子** (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

3) 医師会等の立場で市民公開講座を開催しても、健康に関心がない人の参加は得難い。そこで、小中学校に医師が赴き出前講座を行う活動に7年前から取り組んでいる。子どもたちに「今日学んだことを大人に教えるのが宿題です」と協力をお願いする形を取る。認知症といのちの尊さの講義を提供してきたが(2019年度実績 22校 3567名)、コロナ禍で実施が困難になった。そこで、新たに感染症の講義を構築しDVDを作成した。市内65校の小学5年生から中学3年生の2万人にテキストを配布した。DVDを上映する形で授業の一部を紹介する。

我々総合医は、受診する患者だけでなく、地域の公衆衛生に寄与することを目指したい。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

会期 ライブ配信 2021年5月21日(金)～23日(日)
オンデマンド配信 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
会場 オンライン開催
大会長 大野 每子 (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

>教育講演 10

開催形式: オンデマンド配信

日本の病院総合医のこれまでと今後への提言(委員会企画)

企画責任者	石丸 裕康(天理よろづ相談所病院)
司 会	佐藤 健太(札幌医科大学 総合診療医学講座)
	上原 孝紀(千葉大学医学部附属病院 総合診療科)
講 演	志水 太郎(獨協医科大学)
	内藤 俊夫(順天堂大学医学部総合診療科学講座)
	小西 竜太(独立行政法人労働者健康安全機構)
ディスカッサント	山田 徹(東京医科歯科大学総合診療科)
	森川 暢(市立奈良病院 総合診療科)
	大浦 誠(南砺市民病院 内科・総合診療科)
	本田 優希(聖隷浜松病院)
	原田 和歌子(広島市立安佐市民病院 総合診療科)

[開催の目的]

病院総合医の臨床医像については、本学会も含め、さまざまな学会・団体で議論、実践されてきたが、総合診療医のサブスペシャリティの議論を契機に、関係団体の合意のもと、病院総合診療医専門医制度が構築されつつある。一方、病院総合医に求められるニーズは地域や病院規模に応じて多様であり、その役割や実践も多彩なものである。医師養成や生涯学習において、こうした試みも柔軟にとりいれ、持続的に発展する制度であることが望まれる。本シンポジウムでは、病院総合医の現在に至る状況をまとめ、最新の情報を提供するとともに、病院総合医に期待される様々な役割に応える制度・生涯教育のあり方を議論し、未来に向けた提言を行いたい。

[企画概要]

最初に、イントロダクションとして本シンポジウムの企画目的、病院総合医のいままでの流れについて概要を示す。ついで、現在進んでいる病院総合診療専門医制度の現状と展望についての解説、および医療需要の変化や、社会経済、政治的背景の中、病院総合医に求められる役割についてレクチャーを行う。後半では前半の提示を受け、様々な立場からの議論を行い、未来に向けた提言とする。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

● ライブ配信 2021年5月21日(金)～23日(日)
● オンデマンド配信 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
● オンライン開催
● 大野 每子 (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

地域のプライマリ・ケア未来予想図 ～多職種協働の観点から～
(委員会企画)

企画責任者 吉村 学(宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学講座)
座長 吉村 学(宮崎大学医学部 地域医療・総合診療医学講座)
シンポジスト

(医師)大西 弘高(東京大学医学系研究科医学教育国際研究センター
医学教育国際協力学)

(薬剤師)田村 英俊(寿都そよかぜ薬局(株式会社ミレニアムファーマ))

(看護師)居安 綾子(岡山家庭医療センター 津山ファミリークリニック)

[開催の目的]

地域包括ケアシステムをどう構築していくかは喫緊の課題である。

プライマリ・ケアの最前線である地域の診療所では質の高い多職種連携が求められている。

当学会では医師や薬剤師、看護師の認定制度があり、多職種協働にも注力している。

どのような連携や役割分担ができると良いのかを具体的にイメージできると将来に向かって楽しみになる。

そこで今回、10年後の地域のプライマリ・ケア予想図としてそれぞれの立場から現状と10年後を見据えて報告してもらい、会員の皆さんと一緒に考えたい。

[企画概要]

冒頭、座長のほうから企画趣旨を述べる。多職種から構成されている本学会では職種間連携が鍵となる。学会認定制度の中でも重要なコンピテンシーの一つにこれを掲げている。

大西氏からは医師の立場及び認定制度全体、また卒前卒後教育改革の動きなども合わせて発表していただく。田村氏は薬剤師の立場から地域での実践及び認定制度との兼ね合い、今後の職種間連携の形などについて、居安氏は学会認定プライマリ・ケア看護師という当学会で最も力を入れている資格の実践者として登壇していただく。

それぞれの発表の後で全体討論をしながらこれから未来の地域包括ケア、連携について議論を深めて何らかのヒントを得られるようにしたい。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

会期 ライブ配信 2021年5月21日(金)～23日(日)
オンデマンド配信 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
会場 オンライン開催
大場 大野 每子 (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

>教育講演 12

開催形式:オンデマンド配信

一緒に始めよう！プライマリ・ケア研究のトピック(委員会企画)

企画責任者 金子 惇(横浜市立大学医学部データサイエンス研究科
ヘルスデータサイエンス専攻)
座長 金子 惇(横浜市立大学医学部データサイエンス研究科
ヘルスデータサイエンス専攻)
発表者 吉田 秀平(広島大学地域医療システム学講座)
務臺 理恵子(東京慈恵会医科大学 臨床疫学研究部)
ファシリテーター 矢吹 拓(独立行政法人国立病院機構 栃木医療センター)
務臺 理恵子(東京慈恵会医科大学 臨床疫学研究部)
吉田 絵理子(川崎協同病院 総合診療科)
青木 拓也(東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター
臨床疫学研究部)

プロジェクトメンバー

浜野 淳(筑波大学 医学医療系臨床医学域)
青島 周一(医療法人社団 徳仁会 中野病院)
宮地 純一郎(北海道家庭医療センター あざい東診療所)
春田 淳志(慶應義塾大学医学教育統轄センター)
家 研也(聖マリアンナ医科大学 総合診療内科)
高柳 宏史(熊本大学病院 地域医療支援センター)

[開催の目的]

- ・プライマリ・ケア研究のトピック及び実際に日本で取り組まれている研究にどのようなものがあるかを伝える
- ・研究のアイデアがどの様に生まれてくるかをディスカッションしている過程を共有する

[企画概要]

実践誌「プライマリ・ケア」で連載中の「一緒に始めよう！プライマリ・ケア研究のトピック」がシンポジウムに登場！

- ・プライマリ・ケア研究のトピックってどんなものがあるの？
 - ・「研究」って興味はあるけど何から手をつけていいのか・・・
- というあなた！プライマリ・ケアの診療と研究を並行してなんとかやっているメンバー達がそれぞれのとっておきのトピックをプレゼンします。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

● **ライブ配信** 2021年5月21日(金)～23日(日)
● **オンデマンド配信** 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
● **オンライン開催**
● **大野 每子** (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

そのトピックについて他のメンバーが「自分だったらこういう研究をしたい！」というディスカッションをし、リサーチクエストが出てくる過程も動画でお見せします。

これを見て「自分もやりたいかも」と思ったあなたはその後それぞれのトピックの研究コミュニティに入ることも出来るかも！？



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

会期 ライブ配信 2021年5月21日（金）～23日（日）
オンデマンド配信 2021年5月21日（金）～7月21日（水）
会場 オンライン開催
大会長 大野 每子（唐津市民病院きたはた 院長）



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

>教育講演 13

開催形式: オンデマンド配信

家庭医・総合診療医の緩和ケア キャリア・パスはあるのか? (委員会企画)

企画責任者 浜野 淳(筑波大学)

座長・演者 柏木 秀行(飯塚病院 連携医療・緩和ケア科)

演者 久永 貴之(筑波メディカルセンター病院 緩和医療科)

西水 翔子(宮崎医院/大分大学医学部 総合診療・総合内科学講座)

鷹津 英(甲南医療センター 緩和ケア内科)

[開催の目的]

本企画では、緩和ケアに Special Interest を持つ(もしくは、サブスペシャリティとしたい)家庭医・総合診療医、そして、専攻医に対して、緩和ケアに関する明確なキャリア・パスを提示するために、様々な立場・視点から自由闊達な議論を行う。

[企画概要]

プライマリ・ケアにおいて、緩和ケアは必要不可欠な診療・ケアであり、家庭医・総合診療医は、適切なトレーニングを受け、必要な時に専門家にコンサルテーションを行える環境があれば、多くの人々に対して適切な緩和ケアを提供できる能力と可能性があると考えられている。しかし、我が国において、プライマリ・ケア医の緩和ケア研修ニーズが、明らかになっていなかったため、がん・緩和医療委員会では、専攻医・専門医を対象に、緩和ケア研修のニーズ調査を行った。本企画では、ニーズ調査の結果も踏まえ、関連学会・団体と共に、家庭医・総合診療医の緩和ケアに関する具体的なキャリア・パスについて、議論を深めていきたい。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

● ライブ配信

2021年5月21日(金)～23日(日)

● オンデマンド配信

2021年5月21日(金)～7月21日(水)

● オンライン開催

● 大野 每子 (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

>教育講演 14

開催形式: オンデマンド配信

薬剤師からの情報発信～COVID19(委員会企画)

企画責任者	押切 康子(御代の台薬局品川二葉店)
座長	押切 康子(御代の台薬局品川二葉店)
	坂口 眞弓(みどり薬局)
講師	岡田 浩(京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻健康情報学分野)
	田中 みずき(みどり薬局)
	青島 周一(医療法人社団 徳仁会 中野病院)
	菅原 幸子(株式会社ドラビズ on-line)

[開催の目的]

COVID19 の流行にあたり、薬剤師のとしてどのような情報発信ができたのかを振り返ることで、今後の在り方を検討する

[企画概要]

2020 年全世界を襲った新型コロナウイルスは日本にも外出自粛や経済活動の停滞をもたらした。得体のしれない未知の病気に対して予防という最大の防御を行うことが国民にとって重要なこととなった。そのような中で地域の薬局は衛生材料であるマスク、消毒液やうがい薬、トイレトペーパーやティッシュペーパーなどの日用品の供給に追われることとなった。日々の業務の中で消毒方法の指導など薬の専門家として情報を発信する大切さを痛感した方も多いと思う。薬剤師は情報の発信力が弱いという指摘をされることがある。しかし、職能を生かして地域住民へのさまざまな活動を行っていた薬剤師も多数おられた。その方々から、その時の状況やあり方を共有し、これからの薬局における情報発信について、メディアの方も交えて考えてみたい。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

● ライブ配信 2021年5月21日(金)～23日(日)
● オンデマンド配信 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
● オンライン開催
● 大野 每子 (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

>教育講演 15

開催形式: オンデマンド配信

コロナ禍におけるへき地・離島医療(委員会企画)

企画責任者 阿波谷 敏英(高知大学医学部家庭医療学講座)
座長 阿波谷 敏英(高知大学医学部家庭医療学講座)
本村 和久(沖縄県立中部病院 総合診療科)
シンポジスト 古川 誠二(与論徳洲会病院)
真栄田 この実(沖縄県立北部病院附属伊平屋診療所)
川村 英樹(鹿児島大学病院 感染制御部)
糸数 公(沖縄県 保健医療部)

[開催の目的]

2020 年は新型コロナウイルスのパンデミックは医療に大きな影響を与えた。短期間の重症患者の急増が、急性期病院の能力を超え医療崩壊の懸念が社会問題となり大きくクローズアップされた。一方でプライマリ・ケアの現場においても影響は少なくない。とくにリソースの限られるへき地・島嶼地域では、救急搬送体制、遠隔診療など医療体制、地域コミュニティ、ACP、へき地医療支援体制、医学生・研修医教育、ワクチン接種など行政、公衆衛生上の課題などにおいて特有の問題が生じうる。ひとたびクラスターが発生すると、医療に限らず地域に与える影響は計り知れず、より行政機関、保健所等との連携が重要となり、感染者の発生していない地域であっても課題が山積している。今回、2020 年のコロナ禍において島嶼地域を含むへき地においてさまざまな体験をしたシンポジストの経験を共有し、With コロナの時代に備える一助としたい。

[企画概要]

クラスターの発生した離島でプライマリ・ケアに従事する医師、島外から支援に入った感染症対策の専門家、県の行政担当者をシンポジストに迎え、新型コロナウイルス感染症がへき地・離島医療に与えた影響を共有し、課題を明らかにする。さらに、これまで感染者の発生していないへき地・離島において、備えておくべきことについても議論をおこなう。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

● ライブ配信 2021年5月21日(金)～23日(日)
● オンデマンド配信 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
● オンライン開催
● 大野 每子 (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

>教育講演 16

開催形式: オンデマンド配信

コロナ禍における倫理～現状と未来～(委員会企画)

企画責任者	本村 和久(沖縄県立中部病院 総合診療科)
座長	本村 和久(沖縄県立中部病院 総合診療科)
	宮崎 景(三重大学医学部 名張地域医療学講座)
研究倫理	三浦 靖彦(東京慈恵会医科大学附属柏病院 総合診療部)
臨床倫理	初貝 未来(宇都宮市役所 保健福祉総務課)
	川口 雄史(独立行政法人 国立病院機構栃木医療センター 内科)
	大浦 誠(南砺市民病院 内科・総合診療科)
	川口 篤也(函館稜北病院)
	北西 史直(トータルファミリーケア北西医院)
	中村 ゆかり(医療法人社団 東山会 調布東山病院)

[開催の目的]

倫理的問題は、医学、医療において常に存在する重要な問題と考える。研究での臨床研究法に基づく研究倫理審査や、予後の短い患者に対する治療の差し替えや中止の問題など、いわゆる臨床倫理の問題などがある。新型コロナウイルス感染症の流行では、PCR 検査が拡充するまではその検査適応、また重症患者に対する ECMO や人工呼吸器など限りのある医療資源の配分が問題となった。コロナ禍の現状で、プライマリ・ケアにおいて倫理的問題に直面した場合、どのように解決すべきであろうか。様々な医療機関で、研究倫理審査や倫理コンサルテーションと言われる臨床倫理的な問題を解決するためのチーム形成がなされている。本シンポジウムでは、プライマリ・ケアの現場で、倫理的問題に対して積極的に関わっている医療者の実践を共有し、本委員会としても問題解決にどのようなサポートができるのかを提示したい。

[企画概要]

コロナ禍で倫理的問題に直面した医療者の現状について、7 名のシンポジストを招聘して共有したあと、今後の問題解決について総合討議を行う。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

● ライブ配信 2021年5月21日(金)～23日(日)
● オンデマンド配信 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
● オンライン開催
● 大野 每子 (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

>教育講演 17

開催形式: オンデマンド配信

思春期の子どもたちの心と体:

学校に行けないコロナ渦の子どもたちにどう向き合うか(委員会企画)

企画責任者 高村 昭輝(金沢医科大学 医学教育学)
座長 窪田 満(国立成育医療研究センター 総合診療部)
宮崎 景(三重大学医学部 名張地域医療学講座)
演者 田中 恭子(国立成育医療研究センターこころの診療部
児童・思春期リエゾン診療科)
呉 宗憲(東京都立小児総合医療センター 小児科・思春期科)
恵紙 英昭(久留米大学医療センター 先進漢方治療センター)
矢部 千鶴(三重大学総合診療ネットワーク/津ファミリークリニック)

[開催の目的]

思春期の子どもたちの心と体: 学校に行けないコロナ渦の子どもたちにどう向き合うか(起立性調節障害、頭痛、腹痛、心身症を中心に)

[企画概要]

COVID19 のパンデミックに伴い、思春期の子どもたちも大きく影響を受けている。学習活動のみならず、部活動、友人関係、家族関係など思春期の子どもたちが直面している社会問題は深い。また、起立性調節障害や心身症など多様な理由で学校に行けない子どもたちを保護者とともにプライマリ・ケア医はどのように支えることができるのか? 思春期においてその対応は日常的な相談やカウンセリングから漢方薬も含めた薬物療法、そして、代替医療も含めて、思春期の子どもたちを支える医療を各専門分野からの具体的な意見を聞きながらシンポジウム形式で共有する。保護者や患者本人のニーズ、社会的資源の活用、そして、継続的に、且つ、総合的に対応していくための小児診療と成人診療の連携がまだまだ発展中だという現状も踏まえ、メディカルホームのコンシェルジュとして患者家族とともに思春期の学校に行けない子どもたちの現状を探る。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

● **ライブ配信** 2021年5月21日(金)～23日(日)
● **オンデマンド配信** 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
● **オンライン開催**
● **大野 每子** (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

開催形式: オンデマンド配信

メンタルヘルスの研修はできていますか? : 現状調査および国内外の事例を踏まえて語り合う(委員会企画)

企画責任者 若林 英樹(三重大大学総合診療科)

司会進行 家 研也(聖マリアンナ医科大学 総合診療内科 / 川崎市立多摩病院 総合診療内科)

シンポジスト 相原 茉里(聖マリアンナ医科大学川崎市立多摩病院総合診療内科)

河田 祥吾(亀田ファミリークリニック館山 家庭医診療科)

田中 道德(岡山家庭医療センター奈義ファミリークリニック)

永嶋 有希子(滋賀家庭医療学センター / 弓削メディカルセンター)

[開催の目的]

プライマリ・ケアにおいて、うつ、不安などの精神症状、行動変容、身体疾患に伴う心理など、メンタルヘルスや行動科学の問題は日常的である。そして我が国では、職場のメンタルヘルス、自殺者数の多さ、向精神薬の適正使用などの問題が指摘されている。しかし、総合診療・家庭医療の専門研修において、この領域に関する研修カリキュラムはまだ確立されていない。2020年度より本学会ではメンタルヘルス委員会が設置され、同領域の教育を発展、普及させるための事業を行っている。

本シンポジウムでは、我が国のプライマリ・ケアにおけるメンタルヘルス領域で、どのようなニーズがあり、どんな研修が提供されているのか、また、海外ではどのようなカリキュラムが実施されているのかを報告する。さらに、国内外における同分野の優れた教育事例について共有する。今後のプライマリ・ケアにおけるメンタルヘルス／行動科学に関する教育を発展させるための意見交換を行う。

[企画概要]

メンタルヘルス委員会では、我が国のプライマリ・ケアにおけるメンタルヘルスの診療・研修の実態に関する調査、海外において実施されているカリキュラムの指針や状況に関する調査を行っている。本シンポジウムでは、それらの中間報告を行う。さらに、優れた教育事例として、米国ロチェスター大学家庭医療レジデンシーおよび、岡山家庭医療センター後期研修プログラム各々において、研修を受けた医師がその経験を語る。

これらの報告を踏まえて、当委員会メンバーおよび、研修経験者の間で意見交換し、今後の在り方を求めて討論する。

第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

会期 ライブ配信

2021年5月21日(金)～23日(日)

オンデマンド配信

2021年5月21日(金)～7月21日(水)

会場 オンライン開催

大野 每子 (唐津市民病院きたはた 院長)

<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>



開催形式: オンデマンド配信

プライマリ・ケアでの医療の質・患者安全向上のための患者協働促進ツールの活用
(委員会企画)

企画責任者 青木 拓也(東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター
臨床疫学研究部)
座 長 青木 拓也(東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター
臨床疫学研究部)
演 者 小泉 俊三(一般財団法人東光会 七条診療所)
綿貫 聡(東京都立多摩総合医療センター 救急・総合診療センター)
安本 有佑(板橋中央総合病院)
栗原 健(名古屋大学大学院 医療の質・患者安全学)
柏木 秀行(飯塚病院 連携医療・緩和ケア科)

[開催の目的]

本邦では患者安全の問題は、急性期医療機関を中心として展開されていた。一方、プライマリ・ケアにおいても患者安全の重要性は変わらず、患者中心の医療を育むため、患者協働の実践は不可欠である。本セッションでは、患者協働について理論から実装方法まで扱い、プライマリ・ケアにおける患者安全向上を目指すものである。

[企画概要]

プライマリ・ケアにおける従来の多くの患者安全対策は、医療従事者の行動を変え、専門家間の協力を奨励し、安全文化を強化するなど、医療従事者の視点でおこなわれてきた。近年、患者・家族との協働により、患者の視点でケアへの積極的な関与を奨励し、患者経験価値(PX)などの指標を用いることによって、患者安全性を向上させる取り組みが注目されている。AHRQ でも「プライマリ・ケアにおける患者・家族との協働による患者安全改善ガイド」が作成され、患者協働を促す4つの方法が提案されている。一方で、実際に現場へ適応するためには、患者協働の状況やPXをどのように、またどのような項目で測定し、実装をしていくのか戦略を練らなければならない。そこで本セッションではプライマリ・ケアにおける患者協働の理論から現場での実装まで幅広い議論を行い、日本のプライマリ・ケア領域における患者安全の向上に役立つものとした。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

● ライブ配信 2021年5月21日(金)～23日(日)
● オンデマンド配信 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
● オンライン開催
● 大野 每子 (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

>教育講演 20

開催形式: オンデマンド配信

Annual Evidence Update in Primary Care 2021

～明日から使える最新のエビデンスをあなたに～(委員会企画)

企画責任者 南郷 栄秀(社会福祉法人聖母会 聖母病院 総合診療科)
座長 南郷 栄秀(社会福祉法人聖母会 聖母病院 総合診療科)
演者 岡田 悟(東京北医療センター 総合診療科)
矢吹 拓(国立病院機構 栃木医療センター)
宮崎 景(三重大学医学部 名張地域医療学講座)
五十嵐 俊(横浜市立市民病院 感染管理室)

[開催の目的]

医療の世界は日進月歩であり、日々新しいエビデンスが生み出されています。そのため、昨日まで正しいと信じられていたことが、実は誤りであったと判明することも珍しくはありません。古い知識のままで診療し続けることは、患者にとって不利益をもたらす可能性があります。とは言え、総合診療医の場合、幅広い領域にわたって診療を行う必要があることから、あらゆる知識を常に最新の状態にアップデートし続けるのは容易なことではありません。

Expert EBMer の集まるわれわれ EBM プロジェクトチームが第8回高松大会から毎年提供してきた本講演は、忙しい皆さんが手軽に幅広いプライマリ・ケア領域の最新のエビデンスを知ることができるように、エビデンスをまとめてわかりやすくお伝えすることを目的としています。

[企画概要]

プライマリ・ケア領域に関連の深いエビデンスのうち、直近1年間における最新のものを選びすぐって一挙にまとめて紹介します。4人のEBMプロジェクトチームメンバーが次々とテンポよく論文の内容を解説します。各研究の批判的吟味を交えてお話ししますので、後に論文を読む際のポイントがわかります。クイズ形式で楽しく学べるので、毎年恒例の好評いただいている企画です。短時間で濃密な熱々ほやほやのエビデンスのシャワーを浴びて、あなたの明日からの診療の質をブラッシュアップしてみませんか。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

● **ライブ配信** 2021年5月21日(金)～23日(日)
● **オンデマンド配信** 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
● **オンライン開催**
● **大野 每子** (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

>教育講演 21

開催形式: オンデマンド配信

プライマリ・ケアのための慢性疾患診療スタンダード1～動脈硬化性疾患篇～ (委員会企画)

企画責任者 矢吹 拓(国立病院機構 栃木医療センター)
座長 矢吹 拓(国立病院機構 栃木医療センター)
演者 廣岡 伸隆(埼玉医科大学 総合診療内科)
矢吹 拓(国立病院機構 栃木医療センター)
南郷 栄秀(社会福祉法人聖母会 聖母病院 総合診療科)

[開催の目的]

プライマリ・ケアにおける慢性疾患診療のスタンダードを提示し、参加者の診療スキルの確認と底上げを目的としている。診療のスタンダードを学修するとともに、最新のエビデンスに基づいた情報提供を行うことを目的としている。

[企画概要]

プライマリ・ケアが日々遭遇する頻度の高い疾患について、診療のスタンダードを学ぶ機会実はそれほど多くないかもしれない。また、スタンダードは日々刻々と変化している。生活習慣病・慢性疾患ケア委員会では、プライマリ・ケア領域で遭遇する頻度の多い生活習慣病・慢性疾患ケアの質向上を目的に2020年度から活動を開始した。

本企画では、特に高血圧・脂質異常症・2型糖尿病の動脈硬化性疾患について、最新のエビデンスを基に、皆様の動脈硬化性疾患の診療スタンダードをアップデートすることを目的としている。

具体的には、①診断、②合併症やリスク評価、③薬物療法、④非薬物療法などを軸に、動脈硬化性疾患について、疾患単独でレビューするだけでなく、それぞれの疾患の関係性や対処方法のエビデンスを総合的にまとめる。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

● ライブ配信 2021年5月21日(金)～23日(日)
● オンデマンド配信 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
● オンライン開催
● 大野 每子 (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

>教育講演 22

開催形式: オンデマンド配信

エビデンスに基づいたワクチン接種のために～Annual evidence update (委員会企画)

企画責任者 中山 久仁子(医療法人メファ仁愛会 マイファミリークリニック蒲郡)
座長 中山 久仁子(医療法人メファ仁愛会 マイファミリークリニック蒲郡)
演者 千葉 大(Family Medical Practice Hanoi)
西岡 洋右(西岡記念セントラルクリニック)
来住 知美(日本バプテスト病院 総合内科)

[開催の目的]

総合診療医が日常の臨床で扱うワクチンについての理解を深め、近年アップデートされた情報をもとに、ワクチンによる予防医療について造詣を深め、日常診療に活かしていただくことを目的とする。

[企画概要]

近年、日本の小児の定期予防接種が整備され、小児～青年期に対するワクチン行政・診療は整いつつある。しかし、過去に打ち損じたワクチンやキャッチアップが必要なワクチンについては、重要にもかかわらずあまり知られていない。

また、VPD(vaccine preventable disease: ワクチンによって予防できる疾患)について今年も新たな知見があり、それに伴ってワクチン接種対象の変化や新たに推奨されるワクチンが出現している。

今回は、新型コロナワクチンや HPV ワクチン、帯状疱疹ワクチンなどの最新の知見と課題、今後の展望について触れる。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

● **ライブ配信** 2021年5月21日(金)～23日(日)
● **オンデマンド配信** 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
● **会場** オンライン開催
● **大場** 大野 每子 (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

COVID-19 がもたらした健康格差とその社会的要因(委員会企画)

企画責任者	武田 裕子(順天堂大学)
座長	西岡 大輔(大阪医科大学 研究支援センター 医療統計室)
講演	長嶺 由衣子(東京医科歯科大学)
講演補助	長谷田 真帆(京都大学大学院医学研究科 国際保健学講座 社会疫学分野)
事例紹介・解説	西村 真紀(川崎セツルメント診療所)
事例紹介補助	小松 真成(鹿児島生協病院 総合内科) 大矢 亮(耳原総合病院 救急総合診療科)
講演	水本 潤希(東京大学大学院医学教育国際研究センター 医学教育学部門)
情報提供	西岡 大輔(大阪医科大学 研究支援センター 医療統計室)
講演	春田 淳志(慶應義塾大学医学教育統轄センター)

[開催の目的]

COVID-19 は私たちの医療提供体制だけでなく、人々の健康や健康行動、地域での社会活動、国家の経済などに大きな影響を与えた。その結果、社会的に脆弱な住民の健康が損なわれ、健康の格差が拡大する可能性が指摘されている。国内では、中小事業主や非正規労働者の経済的困窮、路上生活者やいわゆるネットカフェ難民の居住環境の悪化、社会参加の場の制限による高齢者の閉じこもり、慢性疾患や精神疾患を有する患者の病状の不安定化、在日外国人など周辺化された住民の情報アクセスへの障壁などが見聞されている。本企画では、これまでに公表された研究結果から COVID-19 がもたらした健康格差についての現状を把握し、医療従事者が直面した健康に影響を及ぼす社会的要因に関して理解することを目的とする。

[企画概要]

本企画は以下の3部構成である。1)健康の社会的決定要因を概説する。そのような健康の社会的決定要因を抱える人々が COVID-19 によって受けた健康影響、そして COVID-19 によってもたらされた健康の格差について紹介する。2)健康の社会的決定要因はどのようなメカニズムで健康に影響を及ぼすのかを事例をもとに検討する。3)私たち医療従事者は COVID-19 などへの対応を通じて健康の社会的決定要因に直面し、その影響を実感してきたはずである。医療従事者の経験をもとに、私たち医療従事者自身を取り巻く健康の社会的決定要因を一緒に考える機会とする。

第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

金 額 ライブ配信 2021年5月21日(金)～23日(日)
オンデマンド配信 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
金 額 オンライン開催
大 野 毎子 (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

これさえ押さえておけば一安心:災害医療の基本の「き」(委員会企画)

企画責任者 小幡 篤(みちのく総合診療医学センター みやぎ県南医療生協
しばた協同クリニック)
座 長 小幡 篤(みちのく総合診療医学センター みやぎ県南医療生協
しばた協同クリニック)
演 者 江川 孝(福岡大学薬学部 臨床薬学研究室)
國永 直樹(倉敷中央病院総合診療科)
齊藤 稔哲(気仙沼市立本吉病院)

[開催の目的]

台風・洪水・地震・津波、日本では毎年各地で災害が発生している。災害急性期には救急医療が主体となるが、その後の中長期的な保健福祉医療の課題に取り組むにはプライマリ・ケアの役割が極めて大きい。災害弱者である要配慮者の立場に立ち、地域において福祉・行政担当者も含めた多職種で連携して被災地でのプライマリ・ケアに学会員が貢献できるようにしていくことは本学会の重要なミッションであり、災害時に必要とされる支援・受援を実践できるよう、災害医療システム委員会はこれまで学術集会で企画運営を行ってきた。新・家庭医療専門医制度の off the job training で災害医療は必須単位と位置付けられたことを受け、今回はこれから地域のプライマリ・ケアを担う専攻医すべてに身に付けてもらいたいプライマリ・ケアの視点に立った災害医療の基本を学ぶ機会として教育講演を企画した。全職種全学会員向けの災害医療の基本編である。

[企画概要]

プライマリ・ケアに従事するすべての医療者に、プライマリ・ケアの視点での災害医療の基本を理解してもらうための基本的知識を提供する3つの教育講演により構成する。1. 災害医療の制度・仕組み(法制度、代表的な災害支援団体の概要・役割分担等)、2. 医療機関内における災害対応(医療機関ごとの役割、災害対応マニュアルとBCP)、3. 地域(医療機関外)において災害時に求められる医療・保健・福祉(高齢者・障害者・妊婦等災害弱者への対応、居住環境整備、慢性期疾患管理等)。この講演を通して、プライマリ・ケア提供者が災害時に多職種で協働するための、基盤となる知識・視点を提供したい。本講演は当学会の新家庭医療専門医 Off-the-job Training の必須である臨床「災害医療」領域の1.5単位認定企画と位置付ける。

第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

全 体 ライブ配信 2021年5月21日(金)～23日(日)
オンデマンド配信 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
全 体 オンライン開催
大野 每子 (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

>教育講演 25

開催形式: オンデマンド配信

Pharm G – presented by 千葉大総診(委員会企画)

企画責任者 坂口 眞弓(みどり薬局)

座 長 生坂 政臣(千葉大学医学部附属病院 総合診療科)

講師・コメンテーター

上原 孝紀(千葉大学医学部附属病院 総合診療科)

鋪野 紀好(千葉大学医学部附属病院 総合診療科)

野田 和敬(千葉大学医学部附属病院 総合診療科)

塚本 知子(千葉大学医学部附属病院 総合診療科)

横川 大樹(千葉大学医学部附属病院 総合診療科)

李 宇(千葉大学医学部附属病院 総合診療科)

内田 瞬(千葉大学医学部附属病院 総合診療科)

小島 淳平(千葉大学医学部附属病院 総合診療科)

柳田 育孝(千葉大学医学部附属病院 総合診療科)

[開催の目的]

薬局の窓口対応から病棟まで、軽症、重症、老若男女を問わず、あらゆる患者に対応するファーマシストこそジェネラル！という観点から、総合的な研修を行います。

[企画概要]

2019年1月に東京で開催して好評を博した pharm G が、満を持して学術大会に登場です。日常診療で起こる問題を解決すべく、pharm G(ドクターG)形式で回答者を募り、また各ルームでは、近年、医療専門教育で注目されている Team-Based Learning(TBL)、すなわちチームに分かれて議論する学習法を並行させて、インタレストグループを開催します。用意する課題は当日のお楽しみ。症候学(病歴や身体診察)や副作用、薬局窓口での患者相談やコミュニケーションにフォーカスします。対象は薬剤師中心ですが、医師、看護師、総合診療に興味がある方はどなたでも参加可能です。沢山の方のご参加をお待ちしております！



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

会 期 ライブ配信

2021年5月21日(金)～23日(日)

オンデマンド配信

2021年5月21日(金)～7月21日(水)

会 場 オンライン開催

大 野 毎子 (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

開催形式: オンデマンド配信

みんなでつくろう地域ケアレシピ集・第6弾～レシピを展開しよう～
(委員会企画)

企画責任者	井階 友貴(福井大学医学部地域プライマリケア講座)
座長	井階 友貴(福井大学医学部地域プライマリケア講座)
	漆畑 宗介(湖東厚生病院)
	新野 保路(南越前町役場国民健康保険今庄診療所)
	密山 要用(東京ほくと医療生活協同組合 王子生協病院)
	守本 陽一(公立豊岡病院組合立豊岡病院 出石医療センター 総合診療科)
	渡部 健(秋田大学医学部附属病院 総合診療医センター)
	山本 竜也(総合南東北病院)
発表者	長田 芳幸(南医療生協 総合病院南生協病院)
助言者	前沢 政次(夕張市立診療所)

[開催の目的]

全国各地で様々な先進的な地域ケアが施されていますが、全く同じ状況の地域は2つと存在しないため、全国どこでも通用するケアのマニュアル化・一般化は、非常に困難であると同時に、本質的ではない可能性があります。日本プライマリ・ケア連合学会では「地域ケア事例集作成プロジェクトチーム」を立ち上げ、地域のあらゆる医療・健康にまつわる問題に対して、各地で効率的な取り組みが実現するように、地域ケア事例を可及的広く集積し、分類・共有・更新することで、全国各地で類似の問題およびその介入事例を参考にできる「地域ケア事例集」の作成を進めています。6年前の学術大会で開催した第1弾企画のワークショップにより、地域の問題点の分類に関してパブリックコメントを得て、パイロット的に事例を登録いただきました。5年前からの第2～5弾企画のシンポジウムでは、好事例を数例紹介いただきながら、登録内容についての議論を深めました。今回は、1つの好事例をもとに、それがなぜうまくいったのかについて、インタラクティブセッションにより深く読み解き、その成功のエッセンスと各地へ適応について、学会員の皆様のご意見を交えて追求することを目的といたします。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

● ライブ配信 2021年5月21日(金)～23日(日)
● オンデマンド配信 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
● オンライン開催
● 大野 每子 (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

[企画概要]

地域の健康課題、人的課題、政策課題、社会的課題に積極的に取り組まれている1つの事例について、課題、介入、効果、要点、難点、展望、他の地域での適応を系統立てて紹介いただいた上で、「地域ケア事例」のエッセンス抽出と地域適応についてディスカッションするインタラクティブセッションを行います。次のような方のご参加をお待ちしております！

- ①地域に存在する問題点を認識・整理してみたい方。
- ②実際に地域の医療・健康問題に取り組まれている方。
- ③学会の地域ケア事例集作成PTに興味のある方。
- ④プライマリ・ケア医による地域介入の裾野の広さを実感してみたい方。
- ⑤ご登壇いただく先生方のファン。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

● 会 期 ライブ配信 2021年5月21日（金）～23日（日）
オンデマンド配信 2021年5月21日（金）～7月21日（水）
● 会 場 オンライン開催
● 大 野 毎子（唐津市民病院きたはた 院長）



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

>教育講演 27

開催形式: オンデマンド配信

多様なセクシュアリティを支援できるプライマリ・ケア医になるために (委員会企画)

企画責任者 坂井 雄貴(ほっちのロッヂの診療所)
演 者 川島 篤志(市立福知山市民病院)
坂井 雄貴(ほっちのロッヂの診療所)
中山 明子(大津ファミリークリニック)
柴田 綾子(淀川キリスト教病院 産婦人科)
遠見 才希子(筑波大学大学院人間総合科学研究科ヒューマン・ケア科学専攻社会精神保健学分野博士課程)
山下 洋充(河北ファミリークリニック南阿佐谷)
久保田 希(にじいろドクターズ)
川島 篤志(市立福知山市民病院)
柴田 綾子(淀川キリスト教病院 産婦人科)

[開催の目的]

昨今ダイバシティへの意識が広がり、多様な性に配慮したケアを求める社会のニーズが高まっています。日本プライマリ・ケア連合学会 女性医療・保健委員会(チーム PCOG)は、男性医療や LGBTQ の医療を含む多様な性に配慮した診療を支援するため、セクシュアルヘルス委員会に生まれ変わりました。プライマリ・ケアの現場では、生物学的性やジェンダーに起因する男性・女性ならではの様々な健康問題や、性的指向・性自認を含む多様なセクシュアリティを持つ患者の診療に日々関わっています。一方で、こうした性に関する健康問題にどう関わればよいか戸惑う医療者も多いのではないのでしょうか。

今回の教育講演では、委員会として取り扱う「セクシュアルヘルス」について学会員に周知・情報共有を行い、プライマリ・ケアの現場における女性医療・男性医療・LGBTQ の医療について知識をお伝えすることを目的としています。

[企画概要]

セクシュアルヘルス委員会のご紹介と、セクシュアルヘルスの中核となる概念である性差医療・SRHR(sexual and reproductive health / rights: 性と生殖に関わる健康と権利)についてお伝えします。その後、女性医療・男性医療・LGBTQ の医療の視点から、日本のプライマリ・ケアにおける現状と課題を共



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

会 期 ライブ配信 2021年5月21日(金)～23日(日)
オンデマンド配信 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
会 場 オンライン開催
大 野 每子 (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

有した上で、性に配慮したケアの実践について、各領域の専門家を講師としてお招きし、実践と課題についてレクチャーをいただきます。その後相互のディスカッションの機会を持つことで、プライマリ・ケアと専門家との連携について考えます。

プライマリ・ケアを提供する私たちが自身のジェンダーバイアスに気付き、日々の診療で多様なセクシュアリティを支援するために、明日からできることを参加者と共に考える機会にしたいと思います。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

● 会 期 ライブ配信 2021年5月21日（金）～23日（日）
オンデマンド配信 2021年5月21日（金）～7月21日（水）
● 会 場 オンライン開催
● 大 野 毎子（唐津市民病院きたはた 院長）



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

>教育講演 28

開催形式: オンデマンド配信

プライマリ・ケアにおける押さえておきたい重要文献(第5弾)(委員会企画)

企画責任者 岡田 唯男(コアコンピテンシー委員会)

[開催の目的]

どの業界にも、その後のあり方、考え方を換え、後世に大きな影響を与えた古典的文献(Classics, Landmark study)というものが存在する(the ecology of medical care, White ら 1961, Green ら 2001 など)。この教育講演では、その専門性、能力についてしっかりとした論拠が求められる家庭医療／総合診療領域において、現代の理論的基盤、哲学的基盤を形作った、知っておくべき代表的な文献や研究、コンセプトなどを5～10編前後紹介し、本領域の初学者、指導者、研究を志す者にとっての道標の一助となることを目指す。過去数回は古典的文献に限定せず、重要な最新文献も紹介しているため古典的文献→重要文献と変更した。

本講演で取り扱わないもの:教科書、参考書、ガイドラインなどの疾患各論のアップデート



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

● ライブ配信 2021年5月21日(金)～23日(日)
● オンデマンド配信 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
● オンライン開催
● 大野 每子 (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

>教育講演 29

開催形式:オンデマンド配信

薬剤師と災害～東日本大震災から 10 年～(公募企画)

企画責任者 鈴木 秀明(有限会社弘法薬局)
座長 鈴木 秀明(有限会社弘法薬局)
石橋 幸滋(石橋クリニック)
シンポジスト 和泉 邦彦(新潟大学医学部災害医療教育センター)
伊藤 裕子(公益社団法人 大分県薬剤師会)
大川 貴司(自衛隊福岡病院)
江川 孝(福岡大学薬学部福岡大学薬学部 臨床薬学)〃

[開催の目的]

未曾有の被害を及ぼした東日本大震災から 10 年が経過した。地震、洪水、噴火など要因はさまざまな中、医師・歯科医師・薬剤師・看護師など、様々な医療職は状況に合わせて医療救護活動を行う。そのためには、十分な資材がない中でもあらゆることに対応できるスキル、医療チームのメンバーとしての協調性、各職種の役割の理解等が求められる。また、災害時には、傷害、疾病等の緊急対応に加え、長引く復興に向けての地域住民の生活維持・支援が必要であり、まさにプライマリ・ケアの原点といえる。本セッションでは、過去の災害時に被災地で実施した薬剤師の医療救護活動を報告し、医療チームの一員としての今後の課題、改善点を他職種も交えて検討する。

[企画概要]

4 人の方に登壇していただき、3 人の方に「薬剤師活動全般について」「モバイルファーマシーを実際に運用して」「薬剤師と実際の災害で連携して」の成果と課題を、日本プライマリ・ケア連合学会災害医療システム委員会委員の方に学会として災害時の薬剤師の活動についてどう検討されているかを語っていただき、浮き上がった課題をどう改善していくか討論する。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

● **ライブ配信** 2021年5月21日(金)～23日(日)
● **オンデマンド配信** 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
● **オンライン開催**
● **大野 每子** (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

オンライン診療は日本のプライマリ・ケアを良くできるか？

第四の診療形態、その適応と留意点(公募企画)

企画責任者 吉田 伸(飯塚病院総合診療科、潁田病院)

演 者 黒木 春郎(医療法人社団 嗣業の会 外房こどもクリニック)

宋 龍平(岡山精神科医療センター 臨床研究部)

[開催の目的]

本年4月10日の厚労省事務連絡により、それまでの平時のオンライン診療に加え、新型コロナウイルス感染拡大に伴った、初診も可能とした時限措置のオンライン診療が認められた。感染の不安や、労働・育児・介護・地理的遠方などで受診が困難な住民にとりこれは朗報といえる。しかし一方で、適切に対面診療を促さない、不適切な処方をしてしまう、などの事例も起きつつある。このような状況を鑑み、当学会は『プライマリ・ケアにおけるオンライン診療ガイド』を作成し、その解説動画も発表した。本シンポジウムでは、“オンライン診療は日本のプライマリ・ケアを良くできるか”を主題として、当 ICT 診療委員会委員や各方面の識者、そして参加者とともに、その対象者、適応疾患や病態、診察技法、コロナ禍での活用法、そして制度設計と将来像について協議し、オンライン診療が、外来・病棟・在宅医療に続く『第4の診療形態』として我が国に根付くための指針を模索したい。

[企画概要]

オンデマンド配信による教育講演である。委員ならびにゲスト演者より、

- ①オンライン診療の対象者と適応疾患や病態(国内実施状況、当学会ガイドや学術会議での議論からプライマリ・ケア臨床として望ましい適応)
- ②オンライン診療の診察技法とフォローアップ(海外事例・文献・動画から引用、国内の実践例)
- ③軽症自宅待機例のオンラインコロナ診療(かかりつけ患者のコロナ罹患時に医療アクセスを提供)
- ④制度設計と今後の見通し(課題抽出のまとめと、D to P with D の家族志向ケアから見た在り方)

についてミニレクチャーを行い、その後座談会形式で課題抽出や解決の糸口、当学会としての方向性について議論するところを視聴者にお見せする。オンデマンドではあるが、一方向の単調な議論を廃し、委員全体で顔出し参加し、講演に対し適宜コメントや質問を投げかけたりして双方向性の議論を視聴者にお観せしたい。

第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

会 期 ライブ配信

2021年5月21日(金)～23日(日)

オンデマンド配信

2021年5月21日(金)～7月21日(水)

会 場 オンライン開催

大 野 毎子 (唐津市民病院きたはた 院長)

<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>



開催形式: オンデマンド配信

診療看護師導入という未来の医療への提言～多様な導入の可能性を探る～
(公募企画)

企画責任者	久保 徳彦(国立病院機構 別府医療センター 総合診療科)
座 長	久保 徳彦(国立病院機構 別府医療センター 総合診療科)
	志水 太郎(獨協医科大学病院 総合診療科)
演 者	忠 雅之(東京医療保健大学)
	石川 奈津江(医療法人 社団仁成会 高木病院)
	山崎 あゆ子(医療法人社団仁成会 高木病院)
	菱沼 加寿子(国際医療福祉大学成田病院)
	志賀 隆(国際医療福祉大学病院 救急医療部)
	中山 法子(地域医療振興協会とくち診療所)
	中嶋 裕(地域医療振興協会とくち診療所)
	本田 和也(国立病院機構 長崎医療センター 脳神経外科)
	和泉 泰衛(国立病院機構 長崎医療センター)

[開催の目的]

2014年に医療介護総合確保推進法が成立し、実践的な理解力や思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能が特に必要とされる38行為を厚生労働省が特定行為と指定しました。大学院修士課程で病態生理学や薬理学を学び、幅広く複数の特定行為研修を受け、資格認定試験に合格すると診療看護師となります。

診療看護師はフィジカルアセスメント能力や特定行為を実施する技術を持ち、医師と連携することで様々な症状や疾患をもつ患者に対して医療を効率的に提供できます。

私共は、第9回・第10回本学会学術集会のシンポジウムで診療看護師の活動内容を伝え、第11回では診療看護師の導入に向けた戦略を議論し可能性を探ってきました。第12回では各施設の診療看護師と医師に今後の導入に向けてご講演をいただく予定です。

本シンポジウムにて議論した内容を参考に、各施設で診療看護師の導入を検討し、将来的な導入に繋がることを願っています。

[企画概要]

様々な地域で活躍する診療看護師と医師がシンポジストとして講演し、最後に総合討論を行う予定です。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

● ライブ配信 2021年5月21日(金)～23日(日)
● オンデマンド配信 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
● オンライン開催
● 大野 每子 (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

>教育講演 32

開催形式: オンデマンド配信

地域から考える新しい生活様式の提案(公募企画)

企画責任者 中村 浩士(呉医療センター／中国がんセンター)

演 者 平野 賢一(大阪大学大学院医学系研究科 中性脂肪学共同研究講座)

小林 邦久(福岡大学筑紫病院 内分泌・糖尿病内科)

大室 弘美(武蔵野大学 薬学部)

[開催の目的]

デジタル化の波はこれから本格化し、社会全体においてもデジタル化が進むことが考えられます。医療はデジタル化に馴染みにくい分野ですが、医療提供側はもちろん、医療を受ける側にとっても慢性的な人手不足の状況にあっては避けては通れないと思われます。

[企画概要]

健康は、遺伝子から加齢など個人に起因する要因から、生活習慣や、その人の社会経済的な立場、住まいや収入などの生活環境や労働環境、さらには社会構造といったさまざまなレベルの社会的要因の影響を受ける。COVID-19 流行に伴い世界中で社会経済や地域などさまざまな格差の拡大に伴う健康被害も出現しており、日本もけっして例外ではない。「仕事がうまくゆかずストレスで酒量や喫煙が増えた」、「自宅待機で時間をもてあまして体重も増えた」、「病院が怖いので外来受診を控えた」という声を耳にするが、COVID-19 後の生活習慣の悪化による健康被害も懸念される。私たち医療専門職が多職種・多部門と連携して出来ることは決して少なくない筈である。多様化する社会全般にも対応し地域からでも一歩が踏み出せる SDGs 型シンポジウムを提案した。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

● ライブ配信

2021年5月21日(金)～23日(日)

● オンデマンド配信

2021年5月21日(金)～7月21日(水)

● オンライン開催

● 大野 每子 (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

明日から使える！プライマリ・ケア医のための透析の始め方・終わり方
(公募企画)

企画責任者 坂井 正弘(東京ベイ・浦安市川医療センター
腎臓・内分泌・糖尿病内科)
講師 北村 浩一(東京ベイ・浦安市川医療センター
腎臓・内分泌・糖尿病内科)
吉野 かえで(東京ベイ・浦安市川医療センター
腎臓・内分泌・糖尿病内科)
遠藤 慶太(東京ベイ・浦安市川医療センター
腎臓・内分泌・糖尿病内科)
池田 達弥(東京ベイ・浦安市川医療センター
腎臓・内分泌・糖尿病内科)
鈴木 利彦(東京ベイ・浦安市川医療センター
腎臓・内分泌・糖尿病内科)

[開催の目的]

高齢化に伴い成人の約8人に1人がCKDとなり、慢性透析療法を受ける患者数は増加している。また、透析導入時の平均年齢は70.42歳と透析患者の高齢化も進んでいる。フレイルなCKD患者に透析を導入するか(透析医へ紹介するか)、プライマリ・ケア(PC)医が悩みながら保存的管理を行うことは珍しくない。維持透析患者の入院を担当し、状態悪化や患者・家族の希望等により透析の見合わせを検討することもあるだろう。2018年のCKD診療ガイドラインではPC医が診療の中心に位置づけられており、開始・見合わせに関する基本的な考え方・アプローチ法を身に付ける必要がある。PC医と腎臓専門医双方の視点から、実地での介入法についてわかりやすく解説する目的で本講演を企画した。

[企画概要]

透析の開始・見合わせに関する意思決定プロセスを procedure oriented に進めていないだろうか？

- 各CKD stageでの介入法の概要
- 透析を始める・終わるに際してのジレンマ
 - 倫理的ジレンマとは
 - ジレンマの生じやすい患者像



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

会 期 ライブ配信 2021年5月21日(金)～23日(日)
オンデマンド配信 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
会 場 オンライン開催
大 野 毎子 (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

■ ジレンマへどのようにアプローチするか？

- 透析の見合わせに関する諸問題
- 共同意思決定 (shared decision making: SDM) プロセスとは
- procedure oriented から goal oriented な意思決定へ
- 理想の治療・ケアのゴールを実現するための腎代替療法選択
- どのような状況でも継続した緩和ケアを

PC 医と腎臓専門医が協力し goal oriented に意思決定プロセスを進めることで、患者にとっての理想の治療・ケアに近づけることが可能である。サンプル症例を用いて実践についても議論する。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

会期 ライブ配信 2021年5月21日(金)～23日(日)
オンデマンド配信 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
会場 オンライン開催
大会長 大野 每子 (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

>教育講演 34

開催形式: オンデマンド配信

「医師」と「薬剤師」で考えるこれから ～デジタルとアナログのあいだ～ (公募企画)

企画責任者 鈴木 渉太(京都大学大学院医学研究科社会健康医学系健康情報学
奈良県立医科大学附属病院臨床研究センター)

演 者 岡田 浩(京都大学大学院医学研究科
社会健康医学系専攻健康情報学分野)

小林 正宜(葛西医院)

莊子 万能(BonBon 株式会社)

[開催の目的]

デジタル技術の活用を見据え、プライマリ・ケア領域における医師と薬剤師間のコミュニケーションを考える。

[企画概要]

地域医療連携において、医師、看護師、薬剤師など多職種連携の重要性が叫ばれて久しいが、思うようには普及していない。理由のひとつに、職種間で互いの仕事をよく知らないことが考えられる。医師は薬局で薬剤師が患者さんからどのような相談を受けているのか、また、薬剤師も医師が患者さんのためにどのように他職種と関わっているのか知る機会はずしも多くない。

演者らは、医師と薬剤師間のコミュニケーションに活用できるデジタルツール開発に取り組んでいる。その過程での医師、薬剤師、技術者とのディスカッションには、毎回お互いに驚きと新たな発見がある。いきなり高度な連携を目指して挫折するのではなく、もっと小さなお互いを知る対話、アイデアの共有から始めることが重要だと考えた。

本企画では、薬局での事例集動画を作成・紹介し、医師と薬剤師がつながることで患者さんにとってどのようなメリットがあるか演者とともに考えたい。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

● **ライブ配信** 2021年5月21日(金)～23日(日)
● **オンデマンド配信** 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
● **オンライン開催**
● **大野 每子** (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

>教育講演 35

開催形式: オンデマンド配信

コロナ禍で考えた、我が病院の役割(公募企画)

企画責任者 平嶋 竜太郎(豊田地域医療センター)
進 行 平嶋 竜太郎(豊田地域医療センター)
発 表 者 大杉 泰弘(藤田医科大学 医学部 連携地域医療学)
井野 晶夫(豊田地域医療センター)

[開催の目的]

今回、全国の中小病院がそれぞれの立場でコロナ禍に直面しました。豊田地域医療センターでの取り組みを各担当者より紹介させていただいた上で、各地域の医療機関での感染対策、コロナ禍での役割といった情報の共有、これからに向けた意見交換を行って行ければと思っております。

[企画概要]

190 床のコミュニティホスピタルである豊田地域医療センターは、COVID-19 の流行に対し、早期から在宅と病棟チームの完全分業や有症状者を玄関で発熱外来への誘導などを行い、院内への持ち込みが起きないように対策を取っていましたが、感染が拡大するに従い地域における当院の役割を模索しました。市役所と協働し帰国者接触者外来を開設し、また総合病院の負担軽減のため、濃厚接触者の PCR ドライブスルー検査を実施しました。第一波、第二波と対応していく中で、地元企業である TOYOTA の協力による発熱外来のアップデートや入院患者受け入れのための改装、さらに遠隔聴診器による診察、電子問診票の発熱外来への導入といった、感染症対策の枠を超え新たな時代へ向けた、様々な取り組みを行うようになりました。写真や資料を交え、この1年の報告、これからの展望について報告したいと思います。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

● **ライブ配信** 2021年5月21日(金)～23日(日)
● **オンデマンド配信** 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
● **オンライン開催**
● **大野 每子** (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

開催形式:オンデマンド配信

薬局が変わる？薬剤師が変わる？(公募企画)

企画責任者 柳 直樹(ほし薬局)
座長 柳 直樹(ほし薬局)
坂口 眞弓(みどり薬局)
シンポジスト 安川 孝志(厚生労働省医薬・生活衛生局総務課)
出石 啓治(株式会社 出石薬局)
小見川 香代子(アップル薬局小岩店)
佐藤 好美(産経新聞社)
指定発言 安原 真人(帝京大学薬学部)

[開催の目的]

医薬分業推進の元で政策主導型として分業を生み、調剤薬局という一大ビジネスを生み出した。しかしながら医薬分業は進んだものの、国民が薬局で健康に関するサポートを受けにくい状況であると各方面からの指摘を受け、厚生労働省は2015年に患者のための薬局ビジョンを発表した。その後、薬機法の改正により特定の機能を有する薬局として「専門医療機関連携薬局」と「地域連携薬局」の認定が施行された。そして従来からの「健康サポート薬局」も引き続き推進されている。これらの薬局には学会認定等の専門性が高い薬剤師や健康サポートに関する研修を受けた薬剤師の配置が要件となっている。さらに、2020年度の診療報酬改定では対人業務の充実へとインセンティブの変更が行われ、薬剤師の調剤後の状況確認が推進されている。今回、このような薬局と薬剤師を取り巻く環境の変化と、それに伴う業務変化への対応や生涯学習について話し合うことを企画した。

[企画概要]

厚生労働省から患者のための薬局ビジョンが発表され、薬機法の改正により特定の機能を有する薬局として「専門医療機関連携薬局」と「地域連携薬局」の認定が施行された。そして従来からの「健康サポート薬局」も引き続き推進されている。今回、このような薬局と薬剤師を取り巻く環境の変化と、それに伴う業務変化への対応や生涯学習について、シンポジストの見解を話していただき、参加者から意見を伺い、今後の薬剤師の働き方について意見を交換していただく。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

● **ライブ配信** 2021年5月21日(金)～23日(日)
● **オンデマンド配信** 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
● **オンライン開催**
● **大野 每子** (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

これからの『がん診療』の話をしよう ～がん患者と家族を地域で支えていくために～
(公募企画)

企画責任者 西 明博(社会福祉法人太陽会 安房地域医療センター 総合診療科)
演 者 高岡 沙知(安房地域医療センター 総合診療科)
瀬尾 卓司(県立広島病院 臨床腫瘍科)
菅家 智史(福島県立医科大学医学部 地域・家庭医療学講座／
総合診療医センター)
東 光久(福島県立医科大学 白河総合診療アカデミー)

[開催の目的]

治療の進歩により、地域でがんと共に生活する患者は増え続けている。患者と家族には、治療の合併症、二次がんの検診、仕事やお金の悩みなど様々な問題が生じるため、がん診療にはプライマリ・ケア医を含めた多職種による包括的な関わりが必要とされる。一方、がん診療は抗がん治療の専門性の高さからプライマリ・ケア医が関わりづらいつける分野でもある。かかりつけのプライマリ・ケア医ががん専門医と連携し、糖尿病や高血圧をみるのと同じように、主体的にがん診療に関われれば、患者や家族は安心して地域で過ごせるだろう。今こそ『がんを特別視しない社会』の実現にプライマリ・ケア医がその一歩を踏み出す時ではないだろうか。

本企画は、2021年3月に発足した「がん診療に関するプライマリ・ケアワーキンググループ」による企画である。がん診療における課題の提示や実際の連携事例の紹介、がんサバイバーとの対談を通して、がん患者と家族を地域で支えていくためになすべきことについて参加者に考えてもらい、その一歩を踏み出すきっかけとしたい。

[企画概要]

「地域で支える」をテーマに、まずがん専門医とプライマリ・ケア従事者の連携における現状と課題や、プライマリ・ケア従事者ががん診療に関わる意義について提示する。次にプライマリ・ケアの現場で実際にがん専門医・病院との連携に取り組んだ当事者の物語をインタビュー形式で2事例紹介する。その後、一般社団法人全国がん患者団体連合会理事長、一般社団法人グループ・ネクサス・ジャパン理事長である天野慎介氏とがん専門医・家庭医による対談を行う。それらを通して「地域で支える」ということの意義や、医療者に限らず他職種や地域住民全体を含むあらゆる地域資源を利用した具体的な実践方法について提案する。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

● **ライブ配信** 2021年5月21日(金)～23日(日)
● **オンデマンド配信** 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
● **オンライン開催**
● **大野 每子** (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

開催形式: オンデマンド配信

多職種で取り組むフレイル症候群(公募企画)

企画責任者	廣瀬 英生(県北西部地域医療センター国保白鳥病院)
講師	大西 権亮(県北西部地域医療センター)
	細田 絵美香(県北西部地域医療センター)
	藤川 耕(県北西部地域医療センター)
	臼田 絵里菜(県北西部地域医療センター)
	大澤 武嗣(県北西部地域医療センター)
	後藤 忠雄(県北西部地域医療センター)
コーディネーター	廣瀬 英生(県北西部地域医療センター国保白鳥病院)

[開催の目的]

フレイル症候群の当院での取り組みを紹介し、多職種でのフレイルに対するアプローチを知ること

[企画概要]

【概要】

フレイル症候群は、加齢とともに心身の活力(運動機能や認知機能等)が低下し、生活機能が障害され、心身の脆弱性が出現した状態である。我々の行ったコホート研究でも総死亡へのリスクがあることが証明された。一方現在コロナ禍の下高齢者どうしの集まり、運動の機会が減少し、ますますの同症候群の増加が予想される。このセッションではフレイル症候群を定期受診外来でいかに拾い上げ、実際に当院で行っている多職種でどのような手法を用いているかを紹介する。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

会期 ライブ配信

2021年5月21日(金)～23日(日)

オンデマンド配信

2021年5月21日(金)～7月21日(水)

会場 オンライン開催

大場 毎子 (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

>教育講演 39

開催形式: オンデマンド配信

高齢者 ER スピードアップ塾(公募企画)

企画責任者 増井 伸高(札幌東徳洲会病院)
講師 増井 伸高(札幌東徳洲会病院)

[開催の目的]

本講演の目的は「早くて正確な高齢者 ER 診療を実践すること」です。
多くのプライマリ・ケア医は高齢者の慢性疾患を対応できても、急性疾患は苦手です。一方で救急患者の 6 割以上が高齢者です。プライマリ・ケア医こそ高齢者 ER 診療の担い手として期待されています。しかし高齢者 ER 診療に特化した教育機会は多くありません。
ニーズはあるけど誰も教えてくれなかったスピーディーな高齢者 ER 診療術。本講義でプライマリ・ケアはそのノウハウが身に付きます。

[企画概要]

プライマリ・ケア医が高齢者 ER 診療を得意になる2つの方法を解説します。
1つ目に高齢者 ER のスピードアップ術を解説します。高齢者 ER は成人 ER の 2 倍以上に時間がかかることもあります。しかし ER で早さは正義です。高齢者でも早く正確に診断・治療にたどり着くことができるノウハウを解説します。
2つ目に高齢者 ER で特有の主訴の対応法を解説します。高齢者は「元気が無い」、「動けなくなった」、「いつもと違う」といった特有の主訴で搬送されます。成人では認めないこうした訴えを、どの様に症候に落とし込みマネジメントするか解説します。
講演では高齢者 ER の失敗症例をベースに、WEB 講義でも ER の臨場感あふれるベッドサイドティーチングを目指します。聴講すれば次の勤務から、自信をもって高齢者診療が出来るようになることを確約します。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

● **ライブ配信** 2021年5月21日(金)～23日(日)
● **オンデマンド配信** 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
● **オンライン開催**
● **大野 每子** (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

With/After コロナ時代の心身症診療ー心療内科的アプローチの Essenceー
(公募企画)

企画責任者 大武 陽一(伊丹せいふう病院 内科
堺市立総合医療センター 心療内科・緩和ケア科)
座長・演者 大武 陽一(伊丹せいふう病院 内科
堺市立総合医療センター 心療内科・緩和ケア科)
演者 山根 朗(関西医科大学 心療内科学講座)
山崎 允宏(東京大学医学部附属病院 心療内科)

[開催の目的]

新型コロナウイルス感染症は感染者だけでなく、それ以外の多くの人々の治療・療養環境に影響を与えている。

われわれ心療内科医は『心身症』(心理社会的背景を誘引・持続因子とする身体疾患疾患)を専門に日々診療に当たっているが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大と、その感染対策として謳われた『新しい生活様式』の中で、様々な心身症が増加してきている。

具体的には、肥満症、筋筋膜性疼痛症候群(慢性疼痛)、機能性高体温症などである。これらの疾患は特効薬があるわけではないため、薬物療法だけでなく、心理療法(精神療法)を含めた集学的な治療が必要になる。

本講演では、プライマリ・ケア医にとっても比較的使用しやすい心理療法をいくつか取り上げ、用いる際のコツや注意点などについて概説する。

是非プライマリ・ケアに携わる多くの医療者の方に、With/After コロナ時代の心身症診療に生かしていただきたい。

[企画概要]

3人の演者による講演と質疑応答を行います。

質疑応答は下記の URL で募集します。

【内容】

- ①講演: 心身症・心療内科総論
- ②講演: プライマリ・ケアにおける肥満症の診かた
- ③講演: 心療内科医は慢性疼痛をどう診ているか
- ④質疑応答&クロストーク

【質問募集】(3月中旬まで)

質問フォーム: <https://forms.gle/98vC3aNdM6Ka42T28>

※COVID-19に関連したプライマリ・ケア領域でのお悩みを広く募集します。

心療内科医が得意とする領域は、心身症全般・FSS(機能性身体症候群)・MUS(Medically Unexplained Symptoms)などです。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

金 額 ライブ配信 2021年5月21日(金)～23日(日)
オンデマンド配信 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
金 額 オンライン開催
大 野 毎子 (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

>教育講演 41

開催形式: オンデマンド配信

最新版敗血症診療・COVID-19 薬物療法ガイドラインと診療の実践 (公募企画)

企画責任者	藤島 清太郎(慶應義塾大学医学部総合診療教育センター)
司会	藤島 清太郎(慶應義塾大学医学部総合診療教育センター)
演者	藤島 清太郎(慶應義塾大学医学部総合診療教育センター)
	小倉 裕司(大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター)
	細川 直登(亀田総合病院 感染症科)
	岩渕 敬介(地方独立行政法人 神奈川県立病院機構 神奈川県立足柄上病院)
	山元 良(日本版敗血症診療ガイドライン 2020 特別委員会 COVID-19 対策タスクフォース/ 慶應義塾大学医学部救急医学)

[開催の目的]

COVID-19 を含む重症感染症、敗血症は総合診療医もしばしば遭遇する病態であり、その診断や治療に関する継続的な啓蒙が必要である。昨年の本学会では、敗血症の教育講演を企画し、多数の視聴者を得ることができた。日本版敗血症診療ガイドライン特別委員会は、2020 年に敗血症ガイドライン改訂版に加えて COVID-19 薬物療法に関する Rapid/Living recommendations を公開した。本企画では、改訂ガイドライン、COVID-19 薬物療法推奨の作成に関わった演者が、総合診療医に必要な知識を中心に解説し、学会員の重症感染症・敗血症に対する理解を深めることを目的に企画した。

[企画概要]

敗血症は、様々な感染症により臓器機能不全を呈する重症病態であり、ファーストタッチの役割りを担う総合診療医も関わることが多い。COVID-19 患者も、重症化すると高率に敗血症を合併することが明らかとなっている。

敗血症の予後改善には、迅速な診断に基づく適切な全身管理の開始が鍵と



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

金 額 ライブ配信 2021年5月21日(金)～23日(日)
オンデマンド配信 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
金 額 オンライン開催
大 野 毎子 (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

なる。診療指針として、Surviving sepsis campaign guidelines (SSCG)と我が国独自の J-SSCG があり、各々4年ごとに改訂されている。J-SSCG2020 は一足先に先行版が公開され、さらに同作成委員会は COVID-19 薬物療法に関する Rapid/Living recommendations も作成、逐次アップデートしている。本セッションでは、両新ガイドラインの概要、COVID-19 パンデミック下における敗血症診療、さらに COVID-19 実診療について各分野のエキスパートが解説する。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

会期 ライブ配信 2021年5月21日(金)～23日(日)
オンデマンド配信 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
会場 オンライン開催
大会長 大野 每子 (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

病院総合医第7世代の秘密教えます! ~EBM 教育編~ (公募企画)

企画責任者 本田 優希(聖隷浜松病院)
講師 小杉 俊介(飯塚病院 総合診療科)
長谷部 圭亮(旭中央病院 内科)
酒井 達也(沖縄県立八重山病院 総合診療科)
平松 由布季(東京ベイ・浦安市川医療センター 総合内科)
小野 雅敬(明石医療センター)
官澤 洋平(社会医療法人社団 愛仁会
明石医療センター 総合内科)
本田 優希(聖隷浜松病院)
工藤 仁隆(飯塚病院 総合診療科)

[開催の目的]

EBM 実践能力は全ての医師に求められるコンピテンシーである。特に、総合診療医は幅広い医学領域を扱うため、経験の少ない医学的問題に遭遇したり領域別専門医と連携したりする場合が多く、その必要性がより際立つ。実際に、EBM は総合診療専門医や新家庭医療専門医のポートフォリオの一領域となっている。

しかし、EBM 実践能力を十分身に着けるための教育を提供することの負担は小さくなく、頭を悩ませている指導医や、身近に教育がなくて困っている若手医師も多いと考えられる。

本企画は参加者の明日からの EBM 学習・教育実践の一助となり、EBM 教育が広がることを目的とする。

[企画概要]

まず総論として EBM 教育および総合診療における EBM の実践についてまとめる。

次に、臨床での EBM 実践方法について、臨床疑問の適切な作り方やその指導方法、時間をかけない情報検索の方法、エビデンスを患者に適用する際の注意点などを解説する。

最後に、自己研鑽や勉強会の継続方法について、各施設で実際に行っている勉強会を具体例とし、初期研修医向け、専攻医向けそれぞれのコンテンツでの工夫や注意点について解説する。併せて、公開されている有用なコンテンツや勉強会などの紹介も行う。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

● **ライブ配信** 2021年5月21日(金)～23日(日)
● **オンデマンド配信** 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
● **オンライン開催**
● **大野 每子** (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>